

新潟地方の庭園と地域性

Historic Gardens and Regional Characteristics in Niigata

Editing and composition by Takao Donuma

出典：ランドスケープデザイン NO.141 (2021)

(株) マルモ出版

土沼 隆雄



橡亭から見る池泉（小池）と貯水池（目黒邸）

新潟地方の庭園と地域性

編集・構成／土沼隆雄　写真提供／渡辺康文(文殊堂)

新潟地方の庭園

新潟地方の庭園については、以前、『新潟県の庭園（下越・佐渡地区）1988』、『新潟県の庭園（上越・中越地区）1990』として新潟県文化財緊急悉皆調査報告書が県教育委員会より発行されている。

これは上・中・下越・佐渡地区の主だった庭園の所在と簡単な庭園紹介にとどまるなど、主に内部資料として扱われ市民に公表されなかった。

この悉皆報告書作成における調査は、県内のほぼ全ての文化財的価値を有すると考えられる庭園について、その保存状態、歴史的・地理的な特色を把握するという趣旨内容が、県内112市町村（広域合併前）の教育委員会に伝達され、各市町村教育委員会管内にある庭園について、その有無を確認すると共に調査カード記入などによる特徴の記入を実施して提出を願う

というものであった。

その結果142庭園がリストアップされ、庭園文化研究所・村岡正氏らが主任調査員として当たられた。これらの庭園をもとに、すでに国の名勝指定を受けているなどの理由で除外されていた渡邊家庭園、村山家庭園（貞観園）と伊藤家庭園の3庭園を加え145庭園を地域性研究の対象とした。

さて、近年、新潟地方の庭園が地元新聞その他のメディアで取り上げられることが多くなってきた。その発端は2005年、旧齋藤家別邸（新潟市）の売却が報じられたことで、「旧齋藤家夏の別邸の保存を願う市民の会」が市民有志らで組織され、日本造園学会からも保存の請願書が新潟市に提出され、加えて市民の会主催で別邸の一般公開も何度か行われて市民の大きな反響を呼んだことである。別邸は後に公有地化され、庭園は国の名

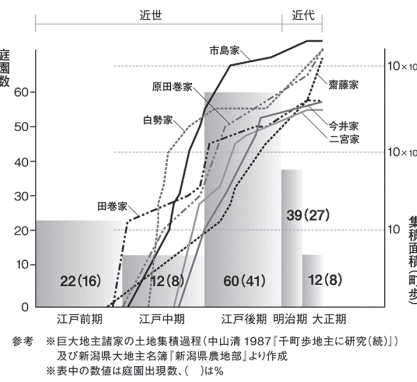
勝にも指定（2015年）された。この頃から庭園に関わるシンポジウムや多くの研究論文が発表されるなど、徐々に新潟地方の庭園が話題にのぼることが増えていった。

新潟地方の庭園は、「豪農」と呼ばれた地主の暮らしと深い関わりを持ってきた。と言うよりもむしろ新潟地方で庭園築造を隆盛化した主体であった。地主たちは江戸期の初めから米の収穫高を増やすために農村部で新田の開発・整備を積極的に行い、稲作経済で多くの富や名声を得た（表2）。その一方で豪商たちは、商業地での金融業の設立、各種会社の起業や支援、株式投資などを進めて財力を付け、この両輪が新潟地方の庭園築造の財政基盤となり、かつ文化的側面からも庭園の質量を下支えしてきたと言える。

さて、これら数多くの優れた庭園

はどのように築造されてきたか、まずその1つには古い時代、主に京都、江戸方面から招聘された幕府庭方や庭師たちの存在があった。彼らによる本格的な庭園築造の技とその造形思想が新潟地方の庭園文化の礎を形成したこと。2つ目には、これら築造された庭園などに学び、あるいは自ら京都、東京に向き庭園技能とそのデザインを修めた地元新潟出身の庭師とその弟子たちの活躍である。3つ目は特に際立った師匠を持たず、ひたすら融雪のための池泉を穿ち、乾地化と季節風回避の囲繞林で屋敷を囲み、近在から出た石材を積み或いは並べて独自の庭園美を構築するなど、雪国の風土や地域性を巧みに読み込んで、日々の生活のなかで様々な創意工夫を重ねながら卓越していった名もない庭師たちの存在だった。

表1 庭園と土地集積推移表（出典：越後／新潟の庭）



参考 ※旧大地主諸家の土地集積過程（中山清 1987「千町歩地主に研究（続）」）及び新潟県大地主名簿（新潟県農地部）より作成 ※表中の数値は庭園出現数、〈 〉は％

地方庭園における地域性研究

地域性の定義

庭園を特徴付けるものは①土地と自然風土、②人間の意志や思想、③庭園を実現するための経済的、社会的基盤などであり、これらの相互関係が庭園を規定している。

換言すれば作庭地域の地理や地形、自然植生、気候風土、造園材料、施主の考えや作庭者（庭師）の思想と技術、社会経済、文化、歴史や伝統の積み重ね、時代性までもが少なからず庭園に影響を与えており、特に地方地

域の庭園では、そのスタイルやデザインが地域と密着して形つくりされていると言える。庭園を規定するこれらの地域的性格は、さまざまな要因から成る複合体であることから、この地域的性格を「地域性」と定義したい。

計率からみた新潟地方の庭園

新潟地方では、以前より社会的・経済的慣行などから上越、中越、下越、佐渡の4地域に区分している。しかし、ここに提示する庭園の地域区分では、庭園に影響を及ぼす自然的環境条件（気候：雨・気温・雪・風／地理：標高・海岸線からの距離）、社会的環境条件（経済：土地所有（地

主分布数）・小作地率・生産（コメ収穫高）・労力（差配人分布数）・関係小作人分布数／宗教：寺院数）によって庭園集團のなかから互いに似た条件を持つものを集めて集團化（クラスター）して分類しようという「クラスター分析※1」で立地区分を試み、その特性からそれぞれ山地型地域、平地型地域、沿岸型地域とした。また社会環境条件の区分では、立地特性の違いや地域の特徴から大地主地帯、中小地主地帯、小（自作）農地帯とした。新潟地方では、庭園を育んできた立地環境を特定の自然的、社会的環境要素をそれぞれ重ね合わせることで合計15区分することができた。（表3）

表2 歴史から見た新潟内外の作庭者とその庭園

区分	作庭時代	庭 師 名	庭 園 名	備 考
新潟地方外の庭師	江戸前中期	縣宗知（江戸）	清水園及び五十公野御茶屋／国名勝（2003）	新発田藩下屋敷完成後庭園築造、遠州流茶人で幕府庭方
	江戸中期	九段仁右衛門（江戸） 藤井友之進（江戸）	貞観園／国名勝（1937）	江戸中期の創設の後、幕府の庭師が補作を行う、昭和7年、田中泰阿弥によって改修、同16年に石庭を築造
	江戸中期	神田兵右衛門（伊勢）	龍雲寺	天明館館の救済事業で作庭を指揮、桑名藩家老で、越後領地に柏崎陣屋があり統治
	江戸中期	京都の庭師	河合部	
	江戸中期、明治期改修	京都の庭師	圓福寺	大原三千院を模して作庭
	江戸後期	京都の遠州流庭師	渡邊邸／国名勝（1963）	江戸中期の庭園構成をよく保存しており、文化財的価値が高い
	江戸後期	京都の庭師	静雅園（旧布施家）	築庭は江戸末期～明治まで、構想は近江八景を模している
	江戸後期	京都の庭師	普濟寺	
	江戸後期	京都の庭師	佐藤（久二）邸	
	江戸後期	京都の庭師か	板垣邸	秘伝書「永崎流庭伝 秘書」があり、序文に「洛陽五条通永崎流庭極斎述」とある
	明治期	京都の庭師	外山邸	外山修造がつくらせた池を中心にくる池泉迴遊式庭園
	明治期	京都の庭師	伊花邸	庭門に明治19年6月吉日と墨書がある
	明治期	相澤熊蔵（江戸）	牧口邸、坂田邸、保坂邸 相澤邸、加藤邸、安沢邸 野沢邸等の築庭及び改築	江戸から柏崎に移り、作庭と共に庭の思想を教え、多くの弟子を育てた。その一人笠原米作は泰阿弥の実兄にあたり、この地方から多くの庭師が育った
	大正期	京都の庭師	渡辺邸	新発田の庭師の後、京都の庭師が作庭
	大正期	廣瀬万次郎（京都）	椿寿荘（旧田巻家）	書院前の枯山水を作庭、後に初代後藤石水が一部改修
新潟地方の庭師	大正期	松本幾次郎（二代目） 弟・松本亀吉（東京）	旧齋藤氏別邸／国名勝（2015）	砂丘地形を利用した自然主義庭園、江戸の大名屋敷にあった石材が多数運ばれた。大正6年～9年の作庭
	江戸後期、明治初期	村山森右衛門 大倉横平	二宮庭園（静勝園）	享保3年に作庭し、その後改修（村山庭師） 明治9年から同17年に作庭し、現在に至る（大倉庭師）
	江戸後期、明治期改修	雪水（住職）（糸魚川市）	通託寺	知恩院庭園を模して作庭
	明治初期	村山正範（鉄斎）（柏崎市）	旧飯塚邸庭園（秋幸園）	文人（書画）
	江戸後期	美石伝（三条市）	成願寺	美石作となれば幕末から明治期の作庭か
	江戸後期	三条の庭師 （通称・ねこ）美石か	浄専寺／新潟県文化財（1990）	「ねこ」は下越地方で作庭が伝えられる「美石」と同一人物ともみられているが確証はない
	明治期	扇石（三条市）	白山公園	日本で最初の計画公園（明治5年）
	明治期	美石（三条市）	石井邸庭園・綿々亭綿屋（樺松園）	石井家の記録には「三条町庭師美石、庭立方～」とある
	明治期～大正期	金藤紅葉郎（新発田市）	齋藤彦太郎邸（開水苑）	新発田藩御庭方、失業者救済対策の一環で作庭され、明治33年から十余年の歳月を掛けた（現孝順寺／阿賀野市）
	明治期	吉井三峰（長岡市）	五十嵐甚蔵邸	「～庭は内容に充実味をみせたもので背景とかは無いようである。（新聞記事）」阿賀野市（旧世神村）
	明治末期～大正期	笠原米作（柏崎市）	榑木邸他	榑木亀之助の時代に築造したが、昭和41年から昭和42年にかけて田中泰阿弥によって改造された
	明治期～大正期・昭和期	初代後藤石水（啓太郎） 二代石水（吉作）、 三代石水（岩雄）（新潟市）	片桐邸、新津邸他（初代作） 和泉屋、榑木邸他（二代作） 坪井邸、中静邸他（三代作）	江戸後期、新発田藩庭方岩蔵が起源で、初代は古典的模式主義、二代目の伝統的様式主義、そして三代目の現代的構成主義とデザインの変遷が続き、三代にわたって多くの庭園を築造した
	昭和期	田中泰阿弥（柏崎市）	貞観園修復、渡邊邸修復、 榑木邸改造、清水園、 伊藤邸、高澤邸他多数	同朋衆の阿弥号を冠し、銀閣寺泉月庵石組を発掘し、昭和初期から新潟地方の名士や豪農の庭園整備を行う